

【議会報告会】

○新図書館について、本町周辺に整備すれば広い土地が確保できる上、設置を検討している大学と一体で利用できるのではないかと。

⇒議員 市は市役所の北側の土地を購入できるかどうかを含め、まずは調査を行うとのことだった。新図書館の設置場所については、ご意見として承る。

○現在進められている中央通りの整備工事について、現状だと点字ブロックと歩道の色に違いがなく、色弱の方は点字ブロックを判別し難いと考える。色の明度の差などで、よりはっきりと色分けして改善してもらいたい。

⇒議員 貴重なご意見として承る。

○市ではよかパパの取組を通じて、父親同士のつながりの形成には取り組んでいるが、母親向けの仕組みも必要ではないかと。

⇒議員 父親に対してはよかパパがあるが、母親同士のつながりを形成する仕組みはほとんどないと認識しているため、委員会でも議論し、行政に伝えていきたい。

【シティ・ミーティング】

《テーマ：四日市市政全般について》

○今年度当初に待機児童が発生し、驚いた。保育士の仕事は非常に大変であり、国の配置基準は一部改善されたが、保育士は今も厳しい中で仕事をしている。名古屋市では公立園と私立園の保育士の給料を同じにしており、四日市市より私立園の待遇が良い。四日市市の人には名古屋市内の養成校で学ぶことが多く、そのまま名古屋市の保育園・こども園に就職してしまう。保育士の待遇改善を議会からも行政に強く言ってほしい。

⇒議員

- ・保育士の待遇の公私間格差については、本市の給与体系は名古屋市とは異なっており、この辺りの整備も必要である。保育士不足が待機児童発生最大のネックであり、議会でも引き続きしっかりと議論していく。

- ・本市で保育士になることだけでなく、退職しないようにすることが重要である。本市では幼児教育センターを立ち上げ、公私、幼保を問わず相談、研修、アドバイスを行っており、施設を機能させて保育士を確保し、守っていききたい。
- ・保育士が辞めてしまう背景の一つに、保護者等とのトラブルにより保育士個人が訴えられるリスクがあることが挙げられる。そうした部分で安心して仕事ができるような施策についても市に求めていきたい。

○こども条例の制定に向けた取組を進めていると聞いたが、どのように子どもの声を聞き、条例に生かしてしていくのか。

⇒議員

- ・市議会ではこどもの権利条例についての勉強会を立ち上げ、調査研究を進めている。また、市では総合計画やこども計画に子どもの意見を反映できるよう取り組んでいる。
- ・条例案に対してパブリックコメントの募集があるので、ご意見を寄せてほしい。

○四郷風致地区での太陽光発電の設置について、さまざまな問題を起こす可能性があるにもかかわらず、開発が進められているのはなぜか。

⇒議員 当初の計画よりも、計画が法的に開発の許認可を必要としない規模まで縮小されているため、行政が開発の可否を判断できる状況にない。また、風致地区であっても、土地の所有者は各個人であり、違法性の無い個人の土地の売買に行政が制約を課すことはできない。議会からの働きかけで、風致地区の緑地率を従来の 30%から上限の 60%まで引き上げているが、開発を法的に止める手段がないため、事業者による開発が継続しているのが現状である。

○PTA加入についての一般質問で、PTA加入は任意であることを会員に周知すると答弁があったが、進捗について議会で確認しているか。

⇒議員 PTAについては、市や教育委員会に尋ねても、PTAは任意団体なので所管外であると回答されるため、議会内で議論がしにくい問題である。組織内でさまざまな不満や要望があることは認識しており、機会があれば議論していきたい。

○4月に学童保育所に入所しても、環境が悪く夏休み前には退所してしまう子どもも多い

と聞かすが、今後、学童保育をどのように整備していくのか。公設の学童保育所の設置や学校の空き教室の利用は市として考えているのか。

⇒議員 学童保育所は不足しているのが現状である。本市ではNPOや保護者団体による民設民営で、市は運営団体に補助金を支出する運営形式になっており、地域で差がある。学校の空き教室を利用している学童保育所はいくつかあるが、学校と学童保育所で担当部局が異なり、ハードルが高いようである。学童保育については、議会でも議論を続けていく。

○全国的に、PFAS汚染について取り上げられている中で、本市の矢合川については、未だに具体的な対応が進んでいない。市民の健康被害を防ぐためにも、検査や対策を早急に進めるべきではないか。

⇒議員

- ・市に対し、矢合川の上流に遡って汚染源を調査するよう積極的に働きかけているが、市からは、汚染の発生源を特定するのは難しいとの回答を得ている。この問題は世間でも大きく注目されているため、引き続き解決に向けた前向きな対応を市に求めていく。
- ・矢合川周辺の地域では産業廃棄物を巡る問題があり、住民運動が行われてきた歴史もある。こうした経緯を踏まえると、早急に安全性を確認することが非常に重要であり、行政が積極的に取り組むべき課題だと考えるため、問題解決に向けて前進させていきたい。

○市が「認知症フレンドリー宣言」をして数年が経ったが、市民への周知が十分ではないと感じている。認知症の方々が「自分は認知症です」と声を上げることができ、地域で支え合える環境にするためには、市民に広く周知する必要があるのではないか。11月16日に開催される「RUN伴」なども通じて、さらに市民に認知症についての理解のため啓発してはどうか。

⇒議員

- ・認知症カフェなどの活動も盛んであるが、認知症でない人は「自分には関係がない」と考え、参加しないケースが多い。市の取組に加え、地域全体で認知症の理解を深めていくことが、住みよい地域社会の実現に不可欠だと感じる。
- ・現状では予算不足と感じるため、今後も議論を重ね、地域のニーズに応えるための具体的な施策を進めていきたい。

- ・認知症施策は当事者だけでなく、企業やさまざまな立場の市民がどう感じているかを共有することが重要である。多様な視点を取り入れ、皆で認知症に対する理解を深めていくため、今後もさらに地域と連携して進めていきたい。
- ・昨年、中央緑地に介護予防や認知症予防を目的とした「ステップ四日市」が設置された。また、各地区には、「サロン」などの地域活動が 600 か所以上も存在し、高齢者の健康維持や認知症予防の支援が行われている。高齢者が少しでも健康でいられるよう、地域全体で認知症予防の取組を推進していきたい。
- ・市民に対する情報提供が不十分だと感じる。広報広聴委員会において、市政の現状や各分野の進捗について、よりわかりやすく丁寧に説明することを提案していきたい。
- ・中央老人センターが閉鎖され、高齢者が集う場が失われたことで、認知症予防の機会が減ってしまった。最近の研究では、認知症は生活習慣を見直すことで予防が可能であることが明らかになっているため、認知症カフェなどで認知症予防の話ができれば、より効果的な取組につながるのではないかと考える。